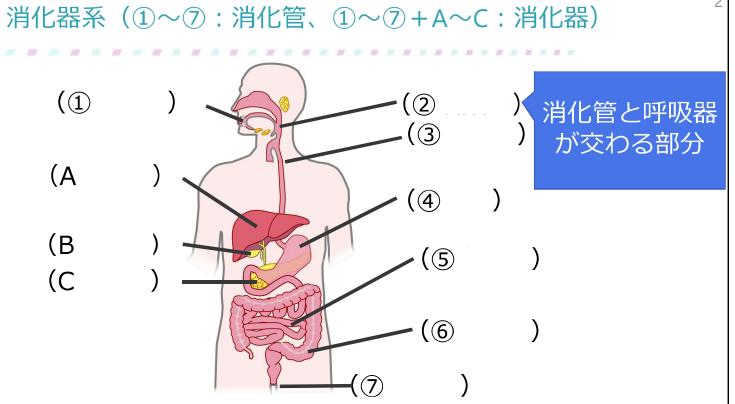


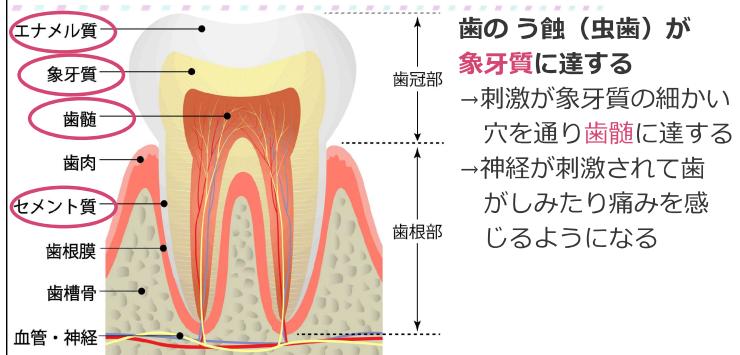
登録販売者試験対策講座

【第2章－消化器系】

人体の構造と働き



口腔（齒）

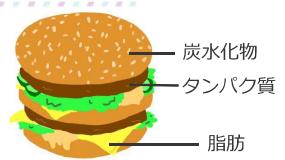


歯のう蝕（虫歯）が
象牙質に達する
→刺激が象牙質の細かい
穴を通り歯髄に達する
→神経が刺激されて歯
がしみたり痛みを感じ
るようになる

栄養素の消化：三大栄養素

炭水化物→ブドウ糖他

タンパク質→アミノ酸



脂肪→脂肪酸、グリセロール (グリセリン)

【参考】 糖の分解



四

ポイント

- 主な働きは貯蔵・消化・殺菌
 - 胃適応性弛緩：中身が空っぽの時は扁平に潰れているが、食道から食べ物が送られてくると胃壁の平滑筋が弛緩し容積が広がる
 - 食道から送られてきた内容物
胃の運動で胃液と混和しかゆ状となる→小腸に送り出されるまで数時間、胃内に滞留
滞留時間：炭水化物→短い、脂肪分→長い
 - ペプシノーゲンを分泌
 - 胃酸でペプシノーゲン→ペプシンの反応が起きる
 - ペプシンにより半消化されたたんぱく質をペプトンと呼ぶ

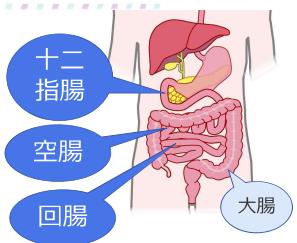
小腸

夜の 十二時に 食う かい？

空回
= 4:6

ポイント

- 全長6～7m
 - 十二指腸：**脾管と胆管**の開口部がある。**Cの字形**をしている。
 - 消化管で吸収された栄養素は門脈から肝臓に送られる。
 - 絨毛で覆われている。



胆囊

肝臓と十二指腸の間に位置する。



ポイント

- 胆囊：胆汁の一時保管場所
 - 胆汁の成分：**胆汁酸**、コレステロール、ビリルビン、リン脂質など
 - 胆汁の働き：脂質の消化、脂溶性ビタミンを吸収しやすくするなど

膵臓

小腸の十二指腸（C字部分）にはまり込んでいる。
胃の裏側にあり、発見が遅かったといわれる臓器。



ポイント

- 三大栄養素すべての消化酵素を分泌する
- アミラーゼ、トリプシノーゲン、リパーゼを分泌
- トリプシノーゲンは腸液でトリプシンとなる
- 脇液は弱アルカリ性
- 血糖値調節ホルモンを分泌する
インスリン：血糖値を下げる
グルカゴン：血糖値を上げる

消化酵素 1

- 語尾：～ゼ、～シン、（～ザイム）
- 不活性→活性の変化：～ゲン → ～シン ※「ゲン=源」と覚える。
- 【例】ペプシノーゲン + 胃酸 → ペプシン
トリプシノーゲン + 腸液 → トリプシン
- ①アミラーゼ：「アミ=アマイ」と覚える。デンプンを麦芽糖へ分解。
- ②チアリン：唾液アミラーゼ、「甘い物好きなアリさん」と覚える。
- ③ペプシン：肉をよく食べるアメリカでは、ペプシ飲料は昔、胃の消化酵素ペプシンが配合されていた。
- ④ペプシン、トリプシン、エレブシン：～ブシンはたんぱく質分解と覚える。
- ⑤リパーゼ：リポ、リバは「脂肪」を表す接頭辞であることを覚えよう。
※リボビタンDのリボは、脂肪分解の意味の「リポクラシス」より。
- ⑥脇液：三大栄養素すべてを消化する酵素を分泌する。



消化酵素 2

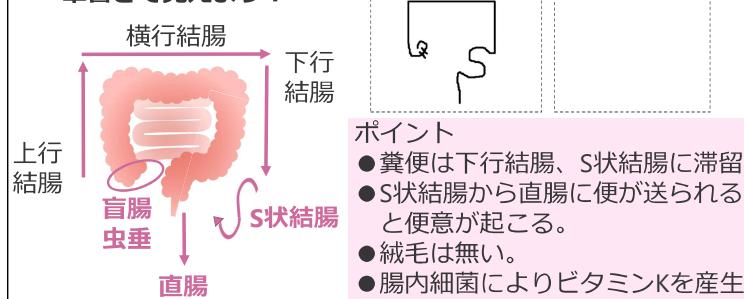
分泌器官	消化液	消化酵素	炭水化物 デンプン	タンパク 質	脂肪
口	唾液	唾液アミラーゼ（チアリン）	○		
胃	胃液	ペプシンノーゲン（胃酸でペプシンへ）		○	
肝臓	胆汁	脂肪の消化を助けるが 消化酵素は含まれない			○
膵臓	膵液	膵液アミラーゼ	○		
		トリプシノーゲン（腸液でトリプシンへ）		○	
		リパーゼ			○
小腸	腸液	マルターゼ	○		
		エレブシン		○	
最終生成物		ブドウ糖他	アミノ酸	脂肪酸 グリセロール	

肝臓

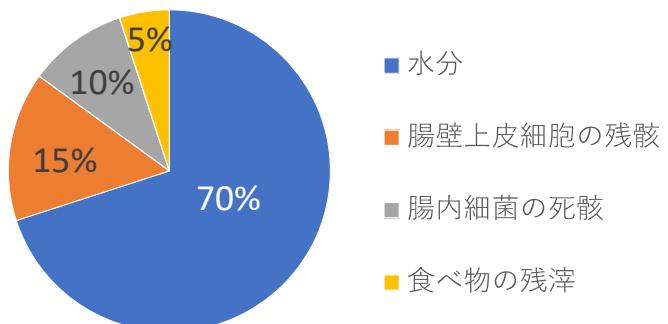


大腸

一筆書きで覚えよう！



糞便の組成



ビタミン覚え方：別名も覚えましょう！

- 脂溶性ビタミン
アレがでかいイイ男（ノンケ）
Aレ Dカ Eトコ（キノンK）
 - VB1：No.1チアガールかっけー
 - VB2：フライを食べて口内炎
 - VB6：ムキムキマッチョをアピりまくり
 - VB12：いつ小腹満たす
 - VC：チャゲアス
- 運動=糖分
フ=2 フライ=脂肪
ム=6 マッチョ=プロテイン
12+コバラ 食事=血肉となる
C=アスコルビン酸

15

10

11

12

13

14

15